

ふなばし三番瀬ロールペーパー

テーマ

- 市民とつくる資源循環型社会の構築
- 地産地消の取り組み

環境保全や資源循環型社会の構築について業界内で話し合いが行われていた。その中、千葉県内では古紙を利用した再生紙 100%のトイレトペーパーが案として上がり、この商品の原形となる「みんなでつくったトイレトペーパー」が完成、発売されました。「みんなでつくったトイレトペーパー」を当組合でも販売し、資源循環型社会構築の推進活動をしていく中で、市民から「船橋市でも作れないものか？」と意見が多く寄せられ、F（ふなばし）ブランドのロールペーパー製作が始まりました。

企画から商品化までの時間は約 1 年半近くを費やし、船橋で産出されたものを船橋で消費する＝地産地消をコンセプトにメンバーで話し合いをしました。メンバー構成は、まちネットふなばしを中心に千葉工業大学、古紙問屋、製紙メーカー、そして当組合が協働で取り組み、「ふなばし三番瀬ロールペーパー」は平成 15 年 5 月 30 日に販売を開始しました。

地産地消を掲げ、原料は市内から回収される有価物（古紙）が原料になってできています。原料は市内の有価物からの白い紙や牛乳パック、市役所から回収する白い紙、また食品コンビナート古紙共同回収より出される白い紙などが原料になってできています。古紙 1 t は、立木 20 本分（直径 14 cm×8m）に相当し、トイレトペーパー約 4500 個分になります。再生紙 100%のトイレトペーパーはこれだけの資源を有効に活用し再生できない紙としての最後をとげます。商品の販売は船橋市再生センターとカフェひなたぼっこ・各イベントでの販売をしており、市民や企業の方々に使って頂いております。

このパッケージには船橋の三番瀬をデザインし、みんなで船橋の良さを再確認しながら、船橋らしいまちづくりをしたいという願いがこめられています。



船橋市場の壁にもパッケージと同じ物が描かれています。（青年部製作）